

「もしもし」

内藤 真理子

朝食を食べ終わった頃、電話が鳴った。

「はい、内藤でございます」と返事をしてしまってから、先日来、家族から「かかってきた電話にいきなり自分の名前を言っではいけない」と、何度も言われていることが頭をよぎった。

では「はい」と言っただけで相手は喋るのを待つのだろうか、喋らなかつたら「どちら様ですか?」と聞くのだろうか、それは失礼だろう。やはり、従来通り、自分の名前を言い、しばらく間合いを取って、相手が名乗るのを待ち、名乗らなかつたらこちらから聞くのが正当な電話マナーではないか、等と考えているうちに相手が喋り出した。

「あ、お母さん、元気?」

? 二人の息子たちとは声が違う。でも私に話しかけるトーンが同じで、相手はたしかに母親の私に話しかけている。思わず

「太郎? (仮名) お父さんもお母さんも元気よ」と言ってしまったから、

「あなた、太郎なの?」と聞くと、

「そう、太郎だよ」

「声が違うみたいだけど・・・」

「違う場所で話しているから変に聞こえるんだよ」

「・・・・・・」

「僕宛に、保健所から知らせが届いているでしょ」

「あなた、やっぱり声が違うじゃない」

「違うわいよ」

「いえ、違うわ、電話を切るわよ」

「うん、いいよ」

電話を切ってから、あれが「オレオレ詐欺」なのだ気が付いた。

そう言えば、姉の家に電話をすると留守番電話が応答する。姉から電話があつて、何回か、オレオレ詐欺らしき電話があつたので、その都度警察に報告をしていたら、

「いつも留守番電話にして置きなさい。相手は必要なら要件を言うから、後から電話をするように」と言われたそうだ。

「だからいつも留守番電話だけど、名前を言ってくれたらすぐに出るからね」と、言っていた。

オレオレ詐欺の所為で、何でもこんな余計な手間暇をかけて、本来の礼儀正しい習慣まで変えなくちゃならないの! 腹が立つ。

でも、せめて保健所の知らせからどんな悪だくみを思いついたのか、聞いておけばよかった。